

三沢・六ヶ所・下北

核燃サイクル阻止1万人訴訟原告団
核燃基礎講座(Zoom学習会)2025.9.22
「バーチャル下北ツアー」

過去・現在・未来をみつめよう!

1964年「下北半島太平洋沿岸」
が原子力施設好適地として青森県
に地質調査を依頼。

1967年には佐藤内閣が新全国
総合開発計画を閣議決定。

三沢市、六ヶ所村、そして下北と国
策の名もとに翻弄され続ける・・



案内人 伊藤和子

全国から女たちが六ヶ所へ
そしてそれぞれ現在も
反原発・反核燃の活動をしている



1990年12月15日～16日 六ヶ所村尾駁集会場にて
全国・青森県内・六ヶ所の女たちが参加



2014年5月女たちのいのちのちの大行進(東京)
六ヶ所へ通い続けた人たちと

「核燃いらね！ 六ヶ所村大行動」 1989年4月9日

全国から12000人参加・施設を人間の鎖で包囲



六ヶ所村尾駁浜で開催



現在・ウラン濃縮工場が建設され稼働している

この図は、東北地方の軍事施設と部隊の分布を示す地図である。地図には、仙台、宮城、福島などの主要都市が示されており、各都市周辺の軍事施設や部隊の配置が詳細に記されている。また、東北地方の主要な交通ルート（東北新幹線、高速道路、鉄道路線、国道・県道）も示されている。

主要な軍事施設と部隊の配置は以下の通りである。

- 三沢基地（空自）**
 - ①第42警戒群
 - 1. 群本部
 - 2. 基地業務隊
 - 3. 監視管制隊
 - 4. 通信電子隊
 - ②第25航空隊
 - ③第73航空隊大湊航空分遣隊
- 大湊基地（海自）**
 - ①大湊地方総監部
 - 大湊警備隊
 - ア) 大湊陸警隊
 - イ) 大湊港務隊
 - ウ) 大湊水中処分隊
 - エ) 多用途支援艦「すおう」
 - ②大湊弾薬整備補給所
 - ③大湊造船補給所
 - ④大湊基地業務隊
 - ⑤大湊衛生隊
 - ⑥大湊音楽隊
 - ⑦大湊海上訓練指導隊
- 下北試験場（陸自）**
 - ①大湊地方総監部
 - ②大湊弾薬整備補給所
 - ③大湊造船補給所
 - ④大湊基地業務隊
 - ⑤大湊衛生隊
 - ⑥大湊音楽隊
 - ⑦大湊海上訓練指導隊
- 下北海洋観測所（海自）**
- 三沢基地大湊分屯基地（空自）（FPS-5 ガメラレーダー）**
 - ①第42警戒群
 - 1. 群本部
 - 2. 基地業務隊
 - 3. 監視管制隊
 - 4. 通信電子隊
 - ②第25航空隊
 - ③第73航空隊大湊航空分遣隊
- 三沢基地（空自）**
 - ①北部航空方面隊司令部
 - ②第3航空団 / 第301,302飛行隊（F-35A,T-4）
 - ③北部航空警戒管制隊
 - ④第6高射群
 - ⑤北部航空施設隊
 - ⑥北部航空音楽隊
 - ⑦警戒航空隊 / 第601飛行隊（E-2C）
 - ⑧航空救難団 / 三沢ヘリコプター空輸隊（CH-47J）
 - ⑨偵察航空隊（グロー/シルホーク2機80人）
 - ⑩航空保安管制群 / 三沢管制隊
 - ⑪航空気象群 / 三沢気象隊
 - ⑫航空警務隊 / 三沢地方警務隊
 - ⑬第3航空団基地業務群衛生隊診療所
- 三沢飛行場（米軍・空自共同使用）15968千㎡**
 - ①米空軍第35戦闘航空団
 - 1. 第13戦闘飛行隊（F-1618機）
 - 2. 第14戦闘飛行隊（F-1618機）
 - ②米海軍三沢航空基地隊（P-3C9機）
 - ③米海軍第7艦隊警戒偵察航空群 / 前方揚陸隊航空司令部
 - ④米陸軍統合戦術地上ステーション（JTAGS）
 - ⑤姉沼通信所（三沢安全保障作戦センター MSOC）
 - 1. 電子保安中隊
- 三沢基地（空自）**
 - ①北部航空方面隊司令部
 - ②第3航空団 / 第301,302飛行隊（F-35A,T-4）
 - ③北部航空警戒管制隊
 - ④第6高射群
 - ⑤北部航空施設隊
 - ⑥北部航空音楽隊
 - ⑦警戒航空隊 / 第601飛行隊（E-2C）
 - ⑧航空救難団 / 三沢ヘリコプター空輸隊（CH-47J）
 - ⑨偵察航空隊（グロー/シルホーク2機80人）
 - ⑩航空保安管制群 / 三沢管制隊
 - ⑪航空気象群 / 三沢気象隊
 - ⑫航空警務隊 / 三沢地方警務隊
 - ⑬第3航空団基地業務群衛生隊診療所
- 三沢基地（空自）**
 - ①北部航空方面隊司令部
 - ②第3航空団 / 第301,302飛行隊（F-35A,T-4）
 - ③北部航空警戒管制隊
 - ④第6高射群
 - ⑤北部航空施設隊
 - ⑥北部航空音楽隊
 - ⑦警戒航空隊 / 第601飛行隊（E-2C）
 - ⑧航空救難団 / 三沢ヘリコプター空輸隊（CH-47J）
 - ⑨偵察航空隊（グロー/シルホーク2機80人）
 - ⑩航空保安管制群 / 三沢管制隊
 - ⑪航空気象群 / 三沢気象隊
 - ⑫航空警務隊 / 三沢地方警務隊
 - ⑬第3航空団基地業務群衛生隊診療所
- 三沢基地（空自）**
 - ①北部航空方面隊司令部
 - ②第3航空団 / 第301,302飛行隊（F-35A,T-4）
 - ③北部航空警戒管制隊
 - ④第6高射群
 - ⑤北部航空施設隊
 - ⑥北部航空音楽隊
 - ⑦警戒航空隊 / 第601飛行隊（E-2C）
 - ⑧航空救難団 / 三沢ヘリコプター空輸隊（CH-47J）
 - ⑨偵察航空隊（グロー/シルホーク2機80人）
 - ⑩航空保安管制群 / 三沢管制隊
 - ⑪航空気象群 / 三沢気象隊
 - ⑫航空警務隊 / 三沢地方警務隊
 - ⑬第3航空団基地業務群衛生隊診療所
- 三沢基地（空自）**
 - ①北部航空方面隊司令部
 - ②第3航空団 / 第301,302飛行隊（F-35A,T-4）
 - ③北部航空警戒管制隊
 - ④第6高射群
 - ⑤北部航空施設隊
 - ⑥北部航空音楽隊
 - ⑦警戒航空隊 / 第601飛行隊（E-2C）
 - ⑧航空救難団 / 三沢ヘリコプター空輸隊（CH-47J）
 - ⑨偵察航空隊（グロー/シルホーク2機80人）
 - ⑩航空保安管制群 / 三沢管制隊
 - ⑪航空気象群 / 三沢気象隊
 - ⑫航空警務隊 / 三沢地方警務隊
 - ⑬第3航空団基地業務群衛生隊診療所
- 三沢基地（空自）**
 - ①北部航空方面隊司令部
 - ②第3航空団 / 第301,302飛行隊（F-35A,T-4）
 - ③北部航空警戒管制隊
 - ④第6高射群
 - ⑤北部航空施設隊
 - ⑥北部航空音楽隊
 - ⑦警戒航空隊 / 第601飛行隊（E-2C）
 - ⑧航空救難団 / 三沢ヘリコプター空輸隊（CH-47J）
 - ⑨偵察航空隊（グロー/シルホーク2機80人）
 - ⑩航空保安管制群 / 三沢管制隊
 - ⑪航空気象群 / 三沢気象隊
 - ⑫航空警務隊 / 三沢地方警務隊
 - ⑬第3航空団基地業務群衛生隊診療所
- 三沢基地（空自）**
 - ①北部航空方面隊司令部
 - ②第3航空団 / 第301,302飛行隊（F-35A,T-4）
 - ③北部航空警戒管制隊
 - ④第6高射群
 - ⑤北部航空施設隊
 - ⑥北部航空音楽隊
 - ⑦警戒航空隊 / 第601飛行隊（E-2C）
 - ⑧航空救難団 / 三沢ヘリコプター空輸隊（CH-47J）
 - ⑨偵察航空隊（グロー/シルホーク2機80人）
 - ⑩航空保安管制群 / 三沢管制隊
 - ⑪航空気象群 / 三沢気象隊
 - ⑫航空警務隊 / 三沢地方警務隊
 - ⑬第3航空団基地業務群衛生隊診療所
- 三沢基地（空自）**
 - ①北部航空方面隊司令部
 - ②第3航空団 / 第301,302飛行隊（F-35A,T-4）
 - ③北部航空警戒管制隊
 - ④第6高射群
 - ⑤北部航空施設隊
 - ⑥北部航空音楽隊
 - ⑦警戒航空隊 / 第601飛行隊（E-2C）
 - ⑧航空救難団 / 三沢ヘリコプター空輸隊（CH-47J）
 - ⑨偵察航空隊（グロー/シルホーク2機80人）
 - ⑩航空保安管制群 / 三沢管制隊
 - ⑪航空気象群 / 三沢気象隊
 - ⑫航空警務隊 / 三沢地方警務隊
 - ⑬第3航空団基地業務群衛生隊診療所
- 三沢基地（空自）**
 - ①北部航空方面隊司令部
 - ②第3航空団 / 第301,302飛行隊（F-35A,T-4）
 - ③北部航空警戒管制隊
 - ④第6高射群
 - ⑤北部航空施設隊
 - ⑥北部航空音楽隊
 - ⑦警戒航空隊 / 第601飛行隊（E-2C）
 - ⑧航空救難団 / 三沢ヘリコプター空輸隊（CH-47J）
 - ⑨偵察航空隊（グロー/シルホーク2機80人）
 - ⑩航空保安管制群 / 三沢管制隊
 - ⑪航空気象群 / 三沢気象隊
 - ⑫航空警務隊 / 三沢地方警務隊
 - ⑬第3航空団基地業務群衛生隊診療所
- 三沢基地（空自）**
 - ①北部航空方面隊司令部
 - ②第3航空団 / 第301,302飛行隊（F-35A,T-4）
 - ③北部航空警戒管制隊
 - ④第6高射群
 - ⑤北部航空施設隊
 - ⑥北部航空音楽隊
 - ⑦警戒航空隊 / 第601飛行隊（E-2C）
 - ⑧航空救難団 / 三沢ヘリコプター空輸隊（CH-47J）
 - ⑨偵察航空隊（グロー/シルホーク2機80人）
 - ⑩航空保安管制群 / 三沢管制隊
 - ⑪航空気象群 / 三沢気象隊
 - ⑫航空警務隊 / 三沢地方警務隊
 - ⑬第3航空団基地業務群衛生隊診療所
- 三沢基地（空自）**
 - ①北部航空方面隊司令部
 - ②第3航空団 / 第301,302飛行隊（F-35A,T-4）
 - ③北部航空警戒管制隊
 - ④第6高射群
 - ⑤北部航空施設隊
 - ⑥北部航空音楽隊
 - ⑦警戒航空隊 / 第601飛行隊（E-2C）
 - ⑧航空救難団 / 三沢ヘリコプター空輸隊（CH-47J）
 - ⑨偵察航空隊（グロー/シルホーク2機80人）
 - ⑩航空保安管制群 / 三沢管制隊
 - ⑪航空気象群 / 三沢気象隊
 - ⑫航空警務隊



三沢基地の概要

1938年(昭和13年)

旧日本海軍が飛行場の建設に着手

1942年(昭和17年)

三沢海軍航空隊の飛行場として開設

※後に第542回海軍航空隊・海軍練習航空隊が配備。

これが三沢基地の始まり

1945年(昭和20年)

米陸軍航空隊・施設部隊が移駐・同航空隊の飛行場として建設工事が開始

1958年(昭和33年)

北部航空方面隊司令部が発足・基地の日米の共同使用を開始

1961年(昭和36年)

北部航空方面司令部が三沢に配備・同年北部航空警戒管制団が配備
米軍から航空警戒管制権を引き継ぐ。

1978年(昭和53年)

第3航空団が移駐、基地業務を担当……現在に至る。



現在の米軍基地正面ゲート



三沢基地通信傍受施設「象のオリ」1965年～
2001年？に撤去・「エシュロン」(ゴルフボール)に替わる。
2014年に「象のオリ」は解体を終える。
現在は「ゴルフボール」は大小が20個以上点在する。



写真の上、三沢基地米軍格納庫、滑走路・手前民間飛行機の
出入り口(ゲート) 三沢基地は日本で唯一の米軍・自衛隊・民
間航空会社が共同で使用している飛行場

三沢基地概要

- ・基地の総面積 約1,597ha(坪数485万坪) 三沢市総面積約5分の1を占める。
- ・三沢飛行場(三沢市・東北町他)滑走路約46m×3,050m(共同使用)
- ・三沢対地射爆撃場(三沢市・六ヶ所村)共同使用
- ・八戸貯油施設(三沢市・八戸市・おいらせ町)油送管施設[パイプライン](三沢市～おいらせ町～八戸市)



基地東側 前面は淋代平 米軍高層住宅



基地北側高層住宅 フェンス側市民の森



小川原湖と姉沼の間にある通信施設ゴルフボール



↑
基地の周りのフェ
ンスにはこの看板
→



米軍三沢基地の主な配備部隊と航空機

部隊名	航空機	数
米空軍第35戦闘航空団	米空軍 F-16C/D戦闘機	36機
米海軍三沢航空基地隊	米海軍 P-8A哨戒機	
米海軍第7艦隊哨戒艇設航空群/前方艦隊航空司令部隷下部隊等	米海軍 C-12輸送機	
米宇宙軍統合戦術地上ステーション 〔米陸軍移動式弾道ミサイル情報処理システム(ジェイタグス)〕	米海軍 EA-18G電子戦機 (ローテーション配備)	2機
三沢情報運用センター		

※ F16からF35A 48機に置き換える計画を2024年に発表・2026年春に配備

航空自衛隊の主な配備部隊と航空機

部隊名	航空機	数
北部航空方面隊司令部		
第3航空団	F-35戦闘機	39機
北部航空警戒管制団	T-4中等練習機	非公表
北部高射群	E-2C/D早期警戒機	
北部航空音楽隊	CH-47輸送ヘリコプター	
偵察航空隊	RQ-4無人偵察機	
三沢ヘリコプター空輸隊		

※ F35機は一機 148億円

三沢基地が及ぼす ➡ 基地公害・事故・財政問題

基地公害

- 騒音→居住地の集団移転・住宅防音対策
- 農漁業への影響・補償問題 治安・風紀・教育

事故

- 飛行機墜落等事故→大きな事故F1墜落(1980)
- 誤射・誤爆・落下物・火災等々多数

財政

- 基地交付金があるから財政は裕福か？
- 基地対策費用(活動費・防音施設の維持管理費等々)
- 日米安保条約により、米軍人は固定資産税・市町村民税・電気ガス等の非課税



1980年8月21日
上北町(現東北町)本村F
1墜落事故現場写真
民家を直撃、人身事故に
は至らなかったが・・

1960年～80年後半まで反基地の闘い その後衰退していく！

労働組合 政党

- 全国的な反基地闘争連携しての基地撤去・安保条約に反対する集会等
- 三沢基地強化に繋がる戦闘機の配備・事故に対する抗議申入れ、集会
- 市民に 向けたアンケート調査(1969年)など。
- 三沢地区労働組合が中心となり市民ぐるみで取り組む。
- 1960、70、80年代後半まで毎年10. 21国際反戦デーなど開催
- 現在は政党による、抗議、街頭宣伝が行われている。

三沢地域 住民

- 基地強化に繋がる配備・航空団移駐などに抗議・三沢市へ申入れ。
- 農漁業への補償拡大
- 侵入面下町内会・天ヶ森住民中心に取り組む。 1960、70、80年代
- 現在は侵入面下町内会があり、行政と一緒に騒音等に関する対策の要請等のみ

市民団体 他

- 1971年FTA(反戦演劇家集団)ジェーン・フォンダの三沢公演
- 「アウル」という反戦バー(1970年4月～1972年10月)反戦米兵ばかりでなく、平和運動や反戦に関心のある日本人も・全国から反戦運動に関心のある人も出入り、閉店後三沢に残り反戦運動をつづける人もいた。
- 「基地に反対する市民の会」「三沢井戸端会議」の市民団体も結成(1970年)
- 現在は市民団体は見受けられない。

1989年頃から、労働組合は総評の解散後、地域闘争が衰退、反戦・反核燃・反原発の運動が少なくなっている。
三沢住民の運動も、集団移転、防音対策などが進むと同時に、反基地の声も少なくなつて、まさに共存共栄の方向に進み続けている。



基地騒音のため移転
住居跡地(四川目地区)



写真撮影の日、頭のすぐ上を旅客機が飛来



四川目地区からの
住民は、左写真
大津に移転

南西3キロぐらいの
移転

2025年8月撮影



四川目地区移転跡地には稲荷神社と
津波の慰霊碑が残されている。その横に
は「永劫の里」移転記念碑
※(三沢は明治29年昭和8年と大津波
の被害を受けている)

(13)

米軍基地の町・三沢と沖縄

- 三沢は敗戦後にアメリカ空軍の基地となり、太平洋戦争直前9,884人の人口が基地建設工事中S22年には20,315人に町制施行S23年27,127人と、いろんなところから人が集まって来た町。三沢はずっと基地の門前町。

現在の人口36,905人(2025年8月)

- 第二次世界大戦の沖縄戦の悲劇は、基地のない沖縄を求める住民の強い思いがある。
- 沖縄では米兵の犯罪が問題視されているが、三沢は事件は少ない。
- 自衛隊も三沢基地は沖縄より住みやすいと言われている。三沢に家も持つ自衛隊家族が多い。



市民の森にある、三沢海軍航空隊之碑

沖縄・他の基地には軍用機の中継や、海兵隊の出撃などの役割がある。
三沢は対地攻撃やミサイル防衛、情報収集という重要な役割を担っている。



三沢基地正面ゲート



2025年8月撮影

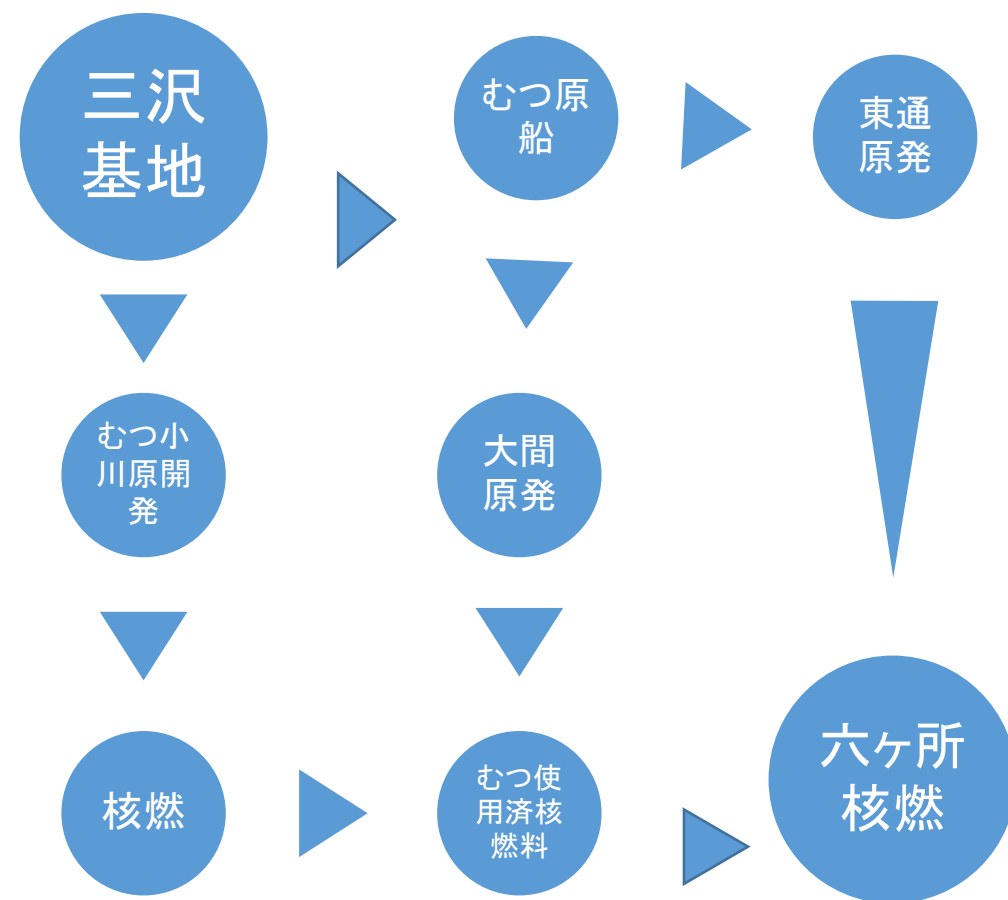


三沢航空祭(毎年9月開催)
ブルーインパルス等の航空機飛行・展示
装備品展示



三沢基地正面ゲート周辺の商店街！

三沢・六ヶ所・下北 → 運動で繋がる人たち



☆三沢基地反戦運動に関わり、むつ小川原開発の
反対運動へ援農等を行った人たち。



反核燃の「村おこしコンサート」の開催に繋がる

☆むつ小川原開発反対の闘いの村民・労働組合
むつ原船の闘いに参加した漁民・市民



反核燃の闘いに参加

☆東通原発の反対闘争に、八戸市民運動の仲間が
白糠へのチラシ配布行動したつながりが



白糠漁民が六ヶ所核燃の海域調査阻止行動 支援に

青森県内外から多くの人が運動の支援に、常にそこには地元住民がいた、大きな運動のうねりもあった。それでも、むつ小川原開発で土地・漁業権が売られ、原発、核燃サイクル施設などがこんなにも作られた。なぜだろう？ 六ヶ所・下北を訪ねることで見てくるものがあると願い、歩きたい。

三沢～六ヶ所村へ



三沢対地射撃場・監視等



上射撃場のため移転新森地区
(旧天ヶ森・砂森地区から)

左上の写真
監視塔の前に
標的があります。
前面の田んぼには地
主以外は立入禁止。

三沢市天ヶ森の
すぐ先、高瀬川を
渡ると六ヶ所村



六ヶ所村の工場地帯？

備蓄基地の手間には広大な太陽光発電建設

↓
国家石油備蓄基地51基
1979年立地決定・1985年完成

再処理工場を取り囲むように風力発電92基

核燃料サイクル施設

〔左側・再処理工場・放射性廃棄物埋設施設
右側・ウラン濃縮工場〕

鷹架沼

写真：六ヶ所村上空・左側石油備蓄・右側再処理工場
(核燃料サイクル施設) 手前鷹架沼 撮影澤井正子

六ヶ所村民は国策に翻弄されつづける

その中で抵抗した村民



1975年11月むつ小川原開発現地説明会に竹内知事が六ヶ所へ・抗議の座り込み 知事は村民に追われるように村から退散



1985年7月 核燃料サイクル施設建設伴う海域調査に反対し、泊の漁民の女たちが替え歌で氣勢をあげる。

青森県の原子力施設は こうして作り上げられた

- 1957年～65年「むつ製鉄」計画頓挫
- 1956年～67年「ビート栽培とフジ製糖誘致・倒産
- 1967年頃正体不明の土地ブームが起こる。
特に三井不動産のダミーと言われる不動産業者が
土地の買い占め。
- 1969年5月「新全国総合開発計画」閣議決定
- 開発計画推進に関する指導を経団連に依頼
- 1970年6月県は公式で開発構想を発表
- 1971年「むつ小川原開発株式会社」発足
- 同年8月寺下六ヶ所村長(1969年～1973年)は開
発反対を表明
- 8、9月と村内に続々と「開発反対」の組織ができる





■左 米内山義一郎氏 上北町出身・政治家であり、運動家、指導者。彼は「現在が一番大事、そしてもっと考えなければならない事は、明日のこと、将来のこと。そうすると過去は将来を展望する資料・史料」だと。

何か問題のあるところに常に居た。

■右 寺下力三郎氏 六ヶ所村生まれ。村役場職員、むつ小川原開発当時の村長1期
開発難民を出してはならない。

2人は開発を「ウソとごまかしのむつ小川原巨大開発反対」と言い闘った。

- ・1972年村議会の「むつ小川原開発住民対策特別委員会」賛成派が多数となる。
村長と村議会との対決が始まる。
- ・1973年六ヶ所村長選挙で開発推進派の古川伊勢松氏が当選・1989年まで4期。
- ・1974年6月「原船むつ」大湊港出航、
9月に放射能漏れ。
- ・1974年開発予定内の民有地60%以上が売られる。
土地代金134億円。
- ・1979年むつ小川原開発地区に国家石油備蓄基地
立地が決定。1985年9月に完成
- ・むつ小川原港1983年に一部供用開始。
- ・1984年4月電気事業連合会は県に対し、「核燃サイクル施設」の建設協力を要請。
- ・1985年4月9日県は受け入れを回答



2025年8月の新納屋地区



1971年むつ小川原開発反対運動は急速な盛り上がりを見せるが、1972年・同時に推進派の動きも目立つようになる。1973年村長選挙で推進派の村長が当選することで反対運動が衰退



尾駁 向中野勇さん自宅・入口と
右下写真は向中野さん(他にも多くの闘った村民がいた)



明治6年新納屋として
部落申請

- ここには開発当初からむつ小川原開発に反対し続けた小泉金吾さん家族が住んでいた。現在、息子さんが居住。
- 上は泉田稻荷神社・「新納屋土地を守る会」50戸近くの人たちが他の鷹架・弥栄平が千歳平(新住区)移転した1980年頃も、土地を売らずにいた。その後は1985年には金吾さん一人になった。しかし、新住区へ移転ではなく、一部の人たちは(新城平)に移転。移転、分断を余儀なくされた。小泉金吾さんは新納屋に伝わる「権現舞」の舞いてあった。
 - 向中野勇さんは自宅入口に「開発・核燃反対」の看板を立て続けた。今は蔓に覆われている。彼は親類縁者から看板を外してくれと言われても頑としてそれには応じなかった。



1991年島田恵撮影

核燃料サイクル施設立地反対運動の始まり

- 1983年 中曾根康弘首相が「下北半島を原子力のメッカに」と発言
- 1984年1月 電力業界、核燃料サイクル三施設の建設構想を発表
- 4月 電事連が青森県知事に正式に要請・立地点は「下北半島の太平洋岸」
- 同時に県内労働組合・政党・農業団体、市民団体等反対に動き出す。
- 1985年2月 「核燃サイクル施設建設に関する県民投票条例」制度請求署名運動が始まる。
- 1985年5月 県民投票条例案は否決（署名 93,643筆）



農業者が
反対決議

1985年4月9日
県が核燃立地
受入を表明

上写真 条例制定六ヶ所村内での、開発反対運動に関わった人たちが中心に上十三地方労の労働組合員と署名を開始



元気が子供に核は
いらない
女どりの大地と安全な食料



農業者もデモや集会を開催
青年部が県内に看板を設置



1984年～六ヶ所村を中心に学習会、
講演会が開催される。



県や事業者が六ヶ所村に来た際
抗議行動も！



1988年8月6日
核燃サイクル阻止1万人訴訟原告団が結成

核燃に頼らない村づくりを



1985年8月

酪農家 佐々木敏さん

多くの若者がスタッフとして関わった



村おこしコンサートは酪農家の若者、牧草地を解放し開催。

しかし、中心になっていた八森地区の酪農家は三沢基地の騒音のため移転を余儀なくされた。(2002年)



菊川慶子さん・1994年からチューリップまつり10数年後からは、ルバーブの栽培、ジャムづくり。県外、青森県内の訪問者に情報を提供し、対話の場を作っている。

村内には、農業おおよそ200戸（専業100戸）・酪農50戸・漁業（漁獲量減）を営んでいる人たちも多くにいるが、核燃に対して反対の声は上げていない。それぞれ核燃マネーによる助成金等がある。専業農家等も減っており、核燃料サイクル施設に関連する仕事に家族等が働いている。



泊漁協の紛糾と 海域調査の闘い



逮捕に対して
野辺地署へ抗議



1984年5月から日本原燃サービス・原燃産業から出されていた海象・海域調査の諾否をめぐって紛糾・逮捕者も出る。

そうした中で1985年12月村長選を闘う。そして、86年6月2日海域調査を強行・前夜から岸壁で抗議

六ヶ所村の村長選挙



寺下力三郎さん1969年～1973年村長
その後2回村長選に臨むが敗れる。



1985年12月 泊漁協組合長・滝口作兵衛さん
村長選を闘う・核燃に反対している漁民・泊のカッ
チャたちが雪の中走り続けた。
選挙では負けたが泊地区では過半数の集票



連日街頭に立っ
たり、チラシ配布
行動・役場で座り
込みと選挙を戦っ
た。



六ヶ所村の村長選挙



- ・1989年の村長選は「核燃凍結」を公約に土田浩氏が出馬(泊の反対運動を2分する)しかし、すぐ推進となる。この時の選挙戦全国からの多大な支援を受ける。
- ・その後も核燃反対を訴え(高田與三郎・梅北陽子・菊川慶子・遠藤順子・山田清彦)氏が立候補し、闘い続けている。
- ・種市信雄さんは無競争にではしないと自宅を選挙事務所に提供し、これまで村長選を闘ってきた。寺下さんの時代から選挙戦に関わっていた。



施設建設・操業と進む その都度抗議の集会・村民の姿は数人のみに



1995年4月、高レベル放射性廃棄物が搬入。高熱を発する。
雨に打たれ、湯煙を上げた。 撮影 島田恵

1988年10月ウラン濃縮施設着工から、93年3月再処理工場着工。91年9月六フッ化ウランの初搬入・92年12月低レベル放射性廃棄物初搬入等々何度もその都度抗議集会を開催。当初は全国から、県内の労働組合、市民も大勢の人が駆け付けていたが、年々減少。六ヶ所村民は建設が進むと同時に姿が少なくなっていた。

核燃料サイクル施設



再処理工場正門

- ・使用済核燃料再処理工場
(1993年着工・27回の竣工延期ー2027年3月予定)
- ・ウラン濃縮工場
- ・低レベル放射性廃棄物埋設センター
- ・高レベル放射性廃棄物一時貯蔵施設
- ・MOX燃料加工工場(2010年着工・18回竣工延期ー2027年予定)



むつ小川原港



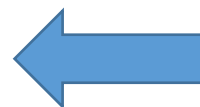
ウラン濃縮工場正門

青森県には核のゴミが貯まり続けている

施 設	主な放射性廃棄物の種類と量(2025年3月時)	最終規模
低レベル放射性廃棄物埋設センター	ドラム缶 375,619本埋設 (2025/7)	300万本
ウラン濃縮工場	固体廃棄物 16,769本(200ℓドラム缶換算) 使用済遠心分離機 150tSWU/年相当	未確認
返還高レベル一時貯蔵	ガラス固化体 1,830本	
再処理工場	ガラス固化体 346本 ハル・エンドピース221本(1,000ℓ入容器) チャンネルボックス・バーナブルポイズン252本 雑固体廃棄物等61,762本	約4万本 不明
原船むつ	原子炉室一括撤去物1体・雑固体等200ℓドラム缶672本	未確認
東通原発	雑固体廃棄物等15,364本(200ℓドラム缶換算) 使用済制御棒67本・使用済チャンネルボックス600本 使用済中性子検出器44本・使用済樹脂等140m ²	未確認
むつ使用済核燃料中間貯蔵	使用済核燃料 69本	

多くの関連事業？！

核融合関連施設
科学研究センター
などの施設も多数



弥栄平中学校・
開拓の碑があった



風力、太陽光発電に係る事業所が沢山
六ヶ所に 風力92機 太陽光3発電
168000KW

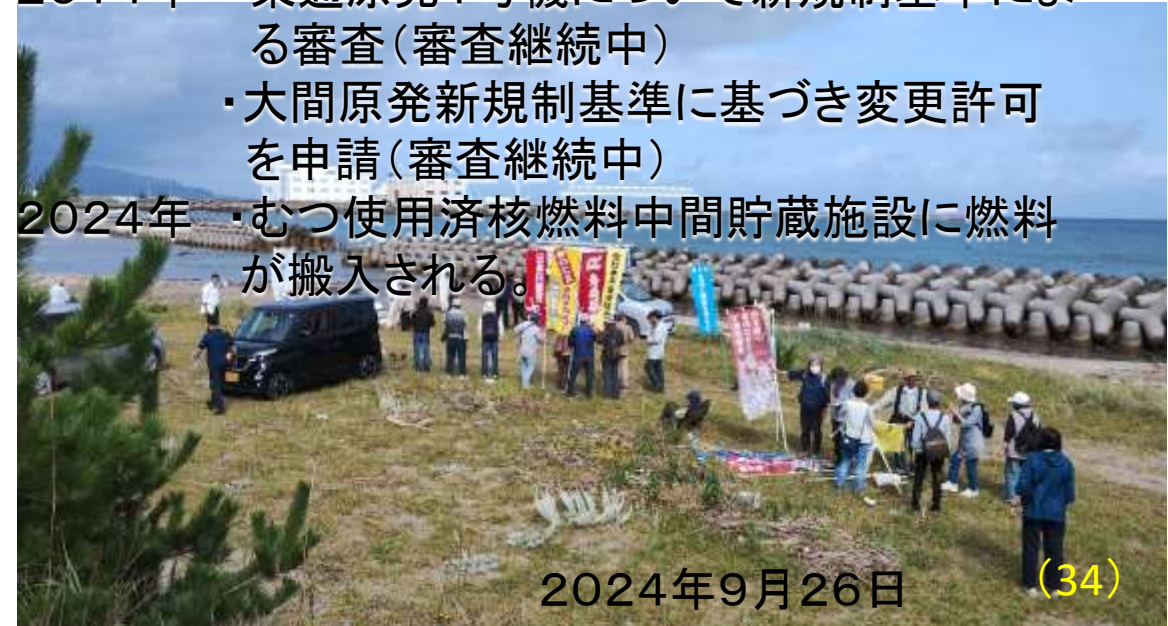


再処理工場隣接に核燃関連施設が100数
社が軒を連ねている(弥栄平地区)

東通原発・関根・むつ中間貯蔵施設

- 1965年 ・東通村・青森県議会原子力発電所誘致を決議
- 1967年 ・むつ市議会「原船むつ」の大湊港母港化を決定
- 1970年 ・東京電力・東北電力が東通村に原子力センターを建設計画発表
・「原船むつ」大湊港に着岸
- 1972年 ・むつ市「下北の郷土と生活を守る会」結成
- 1974年 ・「白糠地区海を守る会」結成
- 1974年 ・「原船むつ」初臨界 ・放射線漏れ事故
- 1982年 ・「原船むつ」再び大湊港に帰港
- 1984年 ・大間町議会が原子力発電所誘致を決議
- 1987年 ・「原船むつ」の新母港として関根浜新港が完成
- 1988年 ・「原船むつ」関根浜定係港に入港
- 1995年 ・解体した「原船むつ原子炉」を海洋科学技術館へ
- 1999年 ・東北電力東通原発1号機起工式
- 2000年 ・むつ市「使用済核燃料中間貯蔵施設」誘致計画発表/2003年むつ市誘致を表明
・「中間貯蔵施設はいらない下北の会」結成
- 2005年 ・東北電力「東通原発」発電開始

- 2008年 ・大間原子力発電所着工
- 2010年 ・函館市住民が中心に大間原発差止め訴訟を提訴
- 2011年 ・3.11の大規模余震で東通原発、非常用発電機で放射能漏れ
- 2012年 ・大間原発工事再開
- 2013年 ・「使用済核燃料中間貯蔵施設」建屋完成
- 2014年 ・東通原発1号機について新規制基準による審査(審査継続中)
・大間原発新規制基準に基づき変更許可を申請(審査継続中)
- 2024年 ・むつ使用済核燃料中間貯蔵施設に燃料が搬入される。



2024年9月26日



1982年むつ原船大湊港に帰港・母港化阻止集会



むつ原船原子炉を海洋科学技術館へ



現在の関根浜港



むつ使用済核燃料中間貯蔵施設

東通原発の誘致が持ち上がってから地元漁師たち1974年頃から反対運動を続けていた。

81年に「反原発・反むつ・八戸市民の会」が中心になり、白糠地区各戸ビラ入を毎週のように行う。

白糠漁協臨時総会(85年2月)10月までのビラは46号を数えた。同時に槌田敦・水口憲哉講演会や米内山義一郎を囲む会など白糠地区、むつ市、関根浜、八戸など数多く開催。

しかし、92年知事の再あっせん額(補償額)提示、臨時総会で141票対361票で、阻止できなかった。

白糠漁協の専業漁師(船主)150戸弱、533組合員、多くは出稼ぎ、サラリーマンで漁師でない人たちが海を売ったことになる。これは関根浜・六ヶ所村も同じ、全国どこも同じらしい。

こうして、東通原発・関根浜原船むつ母港化・むつ中間貯蔵施設・大間原発建設へ。 反対運動は六ヶ所、反核燃とも連携。



佐井村仏ヶ浦



大間町向町防災公園からの大間原発



← 2025年7月大マグロック (36)

昔・最近の写真エトセトラ



青森県庁前でのハンスト



核燃サイクル1万人訴訟原告団
ウラン濃縮工場裁判で 高木仁三郎氏
証人調べ、その後の記者会見
2000年4月28日



2025年5月13日

「核のゴミから未来を守る青森県民の会」
国・事業者とのヒアリング集会（国会衆議
院会館）



4.9反核燃の日・六ヶ所の開発反対を
闘ってきた、4人（高梨・安田・坂井・小泉
さん）が参加



米内山義一郎さんを囲んで
三沢市で 1975年頃？



弘前・母親の会「かくねんまいね」最終デモ



2024年11月フォーラムの開催

テーマみんなの力で、あ
ずましい青森を創ろう」の
パネルを務めてくれた、
板橋さん





平野良一さんと種市信雄さん(2人・2024年世界)

「抵抗」の跡、数少なく



六ヶ所村泊地区にある「核燃から漁場を守る会」の看板
11月

色あせた看板

六ヶ所村を
たどる
<14>

Rokkasho report

むつ小川原開発や核燃料サイクル施設の受け入れを巡り、激しい対立が起きた六ヶ所村泊地区には、「抵抗の歴史」を今に伝える跡が存在する。「核燃は白紙撤回」と書かれた、反核燃団体「核燃から漁場を守る会」の看板だ。六ヶ所村史には次のように

反核燃団体、最後の一人他界

11月8日、この世を去った。種市信雄さん。享年89歳。色あせた看板は、種市さんの自宅に掲げられていた物だ。

69年に六ヶ所村長となった故寺下力三郎氏は開発・核燃反対の中心人物だった。種市さんは寺下氏が村長になった頃から反対運動に関わるようになった。

泊地区で核燃反対を唱えた主な人物には、いずれも故人で漁協組合長だった瀧口作兵衛氏、守る会会長を務めた高梨西蔵氏（ともに村長選に出馬し落選）、漁協の監事、理事だった坂井留吉氏がいる。坂井氏が2011年9月に亡くなった後、守る会のメンバーは実質、種市さんだけだった。

「口数の多い人ではなかったけど、とつとつと、ちゃんと話をしてくれる方だった。こう語るのは核燃サイクル阻止1万人訴訟原告団運営委員

記されている。〈泊漁協は六ヶ所村最大の漁協であったが、原子燃料サイクル施設建設の話がしたいに具体化する中で、これに批判的あるいは慎重な態度を取る組合員が多かった。…同年（1985年）四月七日、泊地区において漁民を中心として「核燃から漁場を守る会」が組織されている〉

結成以来、反対を訴え続けてきた守る会の最後の一人が種市さんの信念があった。

◆ 守る会の看板のような、一見して分かる開発や核燃に抗した跡は今、村内にはほろぼれていない。それは苦難を乗り越えた末に村が手に入れた平和の証しであると同時に、反対運動の衰退を物語る。看板を守り抜いてきた種市さんが他界し、反対派は村内の拠点の一つを失うことになった。

村内で表立って反対の声を上げるのは、90年から活動する菊川慶子さん（76）だけとなった。前回の村長選に出馬した核燃サイクル阻止1万人訴訟原告団事務局長の山田清彦さん（67）は、「選挙の時は種市さんが周りに声をかけてくれた。地元で声をかける人がいなくなると、選挙に影響する」と懸念を口に、こうつぶやいた。「徐々に歴史の証人がいなくなっていく」

（六ヶ所支局 齊藤桂） ※随時掲載

最後に

右下の写真は1985年村おこしコンサートの実行委員会(スタッフ)の反省会の時のものです。六ヶ所村開拓地の酪農家の若者が中心に、三沢・むつ・八戸等の市民運動・労働組合員のメンバーが裏方で取組んだコンサートでした。メンバーの中に三沢「アウル」に関わった人、東通り白糠で毎週チラシ配布をした人、むつ原船・関根浜の運動に関わった人がいる。

そして、六ヶ所のメンバーのほとんどは移転等のため核燃の運動からは遠のいた。裏方のみんなはその後反原発・反核燃の運動をそれぞれのところで続ける。白糠でチラシ配布行動を続けた一人が「続けたことで、講師を見つけてくれるように頼まれたり、そのうち自分たちの主張を入れたチラシを配った・・・それも議論をする。押し付けはしなかった」と語っている。

基本的に、そこに住んでいる人たちの意志、主体性を大切に、生活、経験による生き様もみな違うことを忘れずに関わっていきたい。

運動も30、40年前とは大きく変化してきていると思う。いろんな方面でいろんな運動があるし、どれもがとても大切。

今回、これまで六ヶ所に関わってきた米内山さん、寺下さん、種市さん・・・数えきれないほどの学ばべき人たちが、県内、全国にいる。

核燃サイクル、放射能の恐怖もさることながら、住民、地域が分断されていく事への怒りを持って運動を続けて行きたい。
(伊藤和子)

